

# 研究の成果と課題

## 【 研究の成果 】

### ●自己の確立の場づくり

◇事前に遊びを通した体験活動をする

◇誰もが経験していると思われることや想起しやすい場面でのできごとを教材化する  
→ 多くの子が意見を持つようになった。自分のこととして捉えやすい。

◇ペープサートや絵、具体物、ワークシートを活用する

◇資料提示を工夫する（2～3段階に分けて提示、空欄を設けるなど）

→ 興味関心が高まり、引きつけやすい。

内容に入り込みやすく、発想を広げたり、深く掘り下げることに繋がった。

◇実態に合わせた資料を提示する（モラルジレンマ資料の活用など）

→ **モラルジレンマ資料の活用における成果と課題**

○意見が出やすく、立場の違いを理解しやすい。意見が出にくい学級で効果的。

○学級の実態把握につながる。そこで落ちている価値項目を後で補うような授業展開をしていく。（モラルジレンマ以外の資料の活用）

△収束が曖昧になりやすく、「心の育ち」より「方法論」へ走りがちになる。

△価値項目が限られ、パターン化しやすい。

→ **モラルジレンマ以外の資料の活用における成果と課題**

○はっきりとした価値項目をもとにした話し合いがしやすい。

○自分の「生き方」「心」を高める授業を展開しやすい。

△高い価値を持っている子の意見が多く出やすい。

◇発問の工夫

・子どもの言葉をもとにした発問（キーワードづくり）

・課題につなげる発問（キーワードの引き出し）

・ゆさぶる発問（さらに深めるために）

→ 授業の軸をぶらさず、より考えやすく、より深めるのに効果的。

子どもの考えをより主体的なものへと導くために効果的。

### ●共生・共創の場づくり

◇ネームプレートや紅白帽子を使って立場を明確にする

→ 授業者も子どもも視覚的に状況を捉えやすい。（変化の見取りもしやすい）

◇実態に合わせた資料を提示する（モラルジレンマ資料の活用など）

◇発問の工夫や役割演技、ワークシートの活用

・子どもの言葉をもとにした発問（キーワード）やゆさぶる発問

・ロールプレイング

・学習シートや評価シート

→ 友達の考えが捉えやすい。

自分の考えと比較することにより、違う意見の持つ良さに気づくことができ、またみんなで考えを出し合う良さを感じることができる。

## 【 今後の課題 】

◆価値のとらえを教師がしっかり持つこと。

授業の軸がぶれないよう、また子どもの言葉から価値を引き出したり、さらに深めたりするためにも価値のとらえを教師がしっかりと持つことが大切である。

◆実践に生かすこと。

子どもの変容を見取るためには長い時間が必要となる。学習シートや評価シートを蓄積するだけでなく、系統性を持たせた計画や授業を生かす実践の場面での見取りが大切になる。